

## 29-1 ナラティブアプローチ

## ナラティブアプローチを通し、対象者の想いを形にした介入実践について

1 平成リハビリテーション専門学校 作業療法学科専任教員, 2 医療法人社団 南淡千遙会 南淡路病院

さひら あきこ

○佐平 安紀子 (作業療法士)<sup>1</sup>, 田中 裕二<sup>1</sup>, 田浦 康代<sup>2</sup>

## 【はじめに】

今回,通所リハビリテーション (以下通所リハ) の利用が長期化し,作業活動が単調化した対象者に対して,ナラティブアプローチを用いた治療形態の再構築を実施した過程について以下に報告する.

## 【症例紹介】

60歳代男性で造園業に従事. X年,肝障害の悪化,ウェルニッケ脳症の診断にて入院し,退院後,当院通所リハ利用開始となった.現在は週4回通所リハを利用.

## 【作業療法評価】

面接の中で過去と比較を行う発言が多く,自身の存在を負い目として感じている現状がみられた.改定長谷川式簡易知能評価スケール (以下HDS-R) は19点.改定PGCモラルスケール (以下PGC) は合計3/17点. 思考過程の整理には生活行為向上マネジメント (以下MTDLP) を活用し,合意目標を①通所リハで自分らしい・やりがいのある活動を行う②配膳・食器洗いの手伝いを行うこととした.①の実行度3/10,満足度3/10,②は実行度・満足度共に1/10となった.

## 【経過】

初期段階に半構造化面接を5回実施.過去の振り返りを行う中で「仕事に対する誇り」「人の役に立ちたいとの思い」が重要な要素として抽出された.MTDLPを用い,想いを実現する支援を視覚化し,家族や多職種とも情報共有を行った.共同的关系性を意識し,介入を6ヵ月実践した.

## 【結果】

HDS-Rは変化なく,PGC合計は9/17点と向上が見られた.合意目標①の実行度6/10,満足度8/10,②の実行度8/10,満足度8/10となり,活動参加機会の向上により主観的幸福感の向上,自尊心低下の改善が図れた.

## 【考察】

ナラティブアプローチで重要な共同的关系性の流れを視覚化するツールとしてMTDLPは有効であると考え.想いから抽出した作業は対象者とマッチし,役割の遂行が自己愛を満たす体験となった.また他者から受け入れられる体験を通して自己が承認され,存在価値を見出すこととなった.自信の回復と成功体験を得られるような気付きや,自分は出来るという感覚は,諦めや負い目の強い状態からの改善に有効であると考え.

## 29-2 ナラティブアプローチ

言葉では伝えられない物語を写真にして…  
～1つの物語を語り継ぐ役割を担うクラーク～

富家病院

みやもと あきえ

○宮本 昭江（病棟クラーク）、松本 喜代美、郷田 芳子

## 【はじめに】

当院のナラティブ活動としては、患者や家族が病院で過ごしている時間をスタッフと共有しながら一緒に物語を作っている。

ナラティブ活動にはさまざまな形があり、その中でクラークとして一番携わっているナラティブ写真が実際、患者や家族、面会の方々にどのように思われているか現状を認識する機会が無かったのでアンケート調査を行い、今後の活動にあたり改善点を見出す事が出来たのでここに報告する。

## 【研究方法】

患者、家族、面会者の方々にアンケート調査を行い、ナラティブ写真がどのように思われ受け入れられているかを把握し、今後の活動方針を知る。

- 1、調査対象：当院に入院している患者、家族、面会者。
- 2、調査方法：病棟毎にアンケート用紙を配布。クラークが回収、集計。

## 【結果】

ナラティブ写真がどのように思われているかアンケートを行った結果、大多数は写真を楽しみにしているとの回答であった。

ただし、ごく一部では、写真を撮られる事が嫌いな方や健康な時のイメージを壊したくないので撮らないで欲しいと言う家族もいた。

そして、ナラティブ階段に飾られた写真はほとんどの方が知っていたが、エレベーターを使用する為知らなかったとの少数回答もあった。

## 【考察・まとめ】

一般的なクラーク業務はナースステーション内での事務的業務と受付業務であるが、ナースサポートチームの一員である私達は幅広い業務に携わっている。多職種のスタッフが円滑に業務を遂行できるよう、またナラティブ活動に関わりやすい環境作りにも配慮している。今回のアンケート結果を受け、今後もより一層ナラティブを患者や家族の方全員に知ってもらえるようコミュニケーションをとり、言葉では伝えられない今、この瞬間の表情を写真に残し、人生の物語を語り継ぐ手伝いをしていきたい。